

## 正 誤 表

『歴史地理学野外研究』第14号（筑波大学人文社会科学研究所 歴史・人類学専攻 歴史地理学研究室 2010年3月）

田村真実・吉田国光・市川康夫  
近代三浦半島における生業形態からみた地曳網漁の様相  
—下浦地域を事例として—

該当箇所	誤	正
P150右段5行目	中小路	仲小路
P150右段6行目	中町	仲小路
P150右段24行目	中小路	仲小路
P150右段24行目	中町	仲小路
P151第2表「北下浦村」3行目	中小路	仲小路
P151第2表「北下浦村」4行目	中町	仲小路

備考) この論文に関する正誤表は『歴史地理学野外研究』第15号の巻末にもあります。

## あ と が き

筑波大学歴史地理学研究室関係者のさまざまなフィールドワークの成果を収録した『歴史地理学野外研究』第16号をお届けする。

本号の冒頭に掲載された横須賀に関する報告は、従前より行ってきた三浦半島・横須賀に関する大学院での野外実習の成果をふまえ、それを発展させる形で、双木が独自に行ってきた研究の成果をまとめたものである。

続く、神奈川県津久井郡の旧青根村に関する3編の報告は、2012年度ならびに2013年度に実施した大学院の野外実習の成果をまとめたものである。教員と大学院生が一緒に合宿した調査は、2012年9月30～10月4日、2013年9月23～26日に行われた。2012年度に実習に参加した院生は、花木、水島、高橋の3名であったが、花木、水島は就職のため年度末に退学した。2013年度の参加院生は、歴史地理学コースからは高橋1名のみとなったが、生命環境科学研究科で地誌学を専攻する中川が加わり、また、就職した花木が引き続き参加した。この実習に関する報告では、水力電気事業を扱った花木報告は一定の成果を修めているが、旧青根村の柳川家の史料を用いた調査・研究は、まだ緒についたばかりである。今後の研究の展開が期待される。

5編目の小口ほかの報告は、大学院の歴史地理学演習の受講生とともに、授業の一環として調査した内容をまとめたものである。そのため、歴史地理学ならびに地誌学を専攻する高橋、中川に加え、民俗学や国語教育を専攻する院生が共同執筆者となっている。

なお、前号では、『歴史地理学野外研究』第14号に関して、読者からのご指摘をふまえた「正誤表」を掲載したが、その後あらたに別の読者からご指摘があり、今号でも修正点を「正誤表」として掲載した。地域の具体的事実は重要なデータである。引率教員として目が行き届かなかった点を反省するとともに、地域在住の多くの方々から私どもの研究報告を熟読してくださっていることに深く感謝申し上げたい。正誤表は、前号とあわせてご覧いただければ幸いである。

本号掲載報文の調査に当たっては、多くの皆様からご教示とご協力をいただいた。お世話になった方々のお名前・機関名は個々の報文で述べさせていただいたが、全編を通じて、地域住民の皆様や関係各機関・団体の皆様から貴重な情報、ならびにあたたかいご支援をいただいた。末筆ながら、あらためてお礼を申し上げる。

2014年3月

小口 千明  
中西僚太郎

本号執筆者（掲載順）

- 双木 俊介 文教大学人間科学部 非常勤講師  
花木 宏直 琉球大学教育学部 講師  
高橋 淳 筑波大学人文社会科学研究科 歴史・人類学専攻 歴史地理学コース大学院生  
中川 紗智 筑波大学生命環境科学研究科 地球科学専攻 地誌学分野大学院生  
小口 千明 筑波大学人文社会系 教授  
上形 智香 筑波大学人文社会科学研究科 歴史・人類学専攻 民俗学コース大学院生  
新宮 千尋 筑波大学教育研究科 教科教育専攻 国語教育コース大学院生  
中西僚太郎 筑波大学人文社会系 教授

---

歴史地理学野外研究 第16号

---

2014年3月 印刷・発行

発行 筑波大学人文社会科学研究科  
歴史・人類学専攻 歴史地理学研究室

〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1  
電話 029-853-4493

印刷 株式会社 イセブ

〒305-0005 茨城県つくば市天久保2-11-20  
電話 029-851-2515

---